

ジャパンプラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

7月度理事会報告

第18回ジャパンプラブ 定期総会開かれる

37名が参加、成功裏に終わる(委任状提出会員は9名)

ジャパンプラブ7月度理事会は、7月14日(土)午後1時からサンフランシスコ日本町、日米会館内ジャパンプラブ事務所にて於いて上野正安会長以下8名の理事が出席して開かれました。

まず1週間後7月21日(土)に開催される第18回定期総会についての協議から始まり、当日の開会宣言は古田紘一事務局長、司会に大隅敏男副会長、議長に上野正安会長そして議案のうち2012年度会計報告と2013年度予算案は沖山泰彦会計理事、2012年度事業報告及び2013年度事業計画(案)については大槻悦子副会長がそれぞれ担当する事に決まり、さらに2013年度事業計画案では会員の方からの要望のあった日帰りバス旅行について、JTBに協力を頼み、5月にシエラ山脈の麓にあるカリフォルニア、ゴールドラッシュ時代の町並みがそのまま保存されている州立歴史公園ジェームスタウンを訪ねる案について具体的に検討する事を了承されました、また、2013年度理事候補12名を選び総会での承認を待つこととして総会関連の議事を終了。

引き続き事務局でまとめている2013年度の全会員名簿および各地域緊急連絡網の名簿について各理事及び地域連絡担当者の確認を得て全会員に配布する事になりました。

また、総会では会員の方からの要望や、苦情を聞くコーナーを設け様々な意見を聞き今後の会の運営に役立てる事にしました。

最後は、7月29日(日)の親睦ゴルフ大会、9月23日(日)のBBQピクニックについての細かい話し合いがなされて閉会しました。

8月の理事会は8月11日(土)ジャパンプラブ事務所午後1時より開きます。

新しい会員名簿を今月号のニュースレターに同封しておりますが、ご自分の箇所に誤りや変更がある方は事務局迄ご連絡ください、尚、この名簿は会員以外への回覧はお断わりいたします。(事務局連絡先: k.furuta@sbcglobal.net 又は、Tel: 650-341-7857 です)

今月ニュースレターは総会報告を掲載するため少し遅れた事をご確認ください。

第18回定期総会の報告

ジャパンプラブ第18回定期総会は7月21日(土)サウス・サンフランシスコのバスクコミュニティセンターを会場に37名の出席者(内非会員7名)と9名の委任状提出会員で開かれました。

事務局長の開会宣言とご招待者である石川久、久美子ご夫妻の紹介に続き、進行と司会を務める大隅敏男副会長により本日の議長に上野正安会長を選出し議事に入りました。まず始めに上野正安会長の挨拶があり「第18回の定期総会を迎える、この継続性は素晴らしい事ではありますが一方、会員、理事共にそれなりの歳を重ね高齢化して来ております、加えて若い会員の加入はなかなか難しいのが現状です、これらの局面を少しでも改善すべく「魅力ある会を目指して」理事会に於いても活発な討議がなされていますが、さらには会員の方々の提案やアイデア、希望等にも期待したい」と話されさらに会長は閉会の挨拶でも「会の発展の為には恐れず新しい事に積極的にチャレンジして行こう、その為には会としても進んで補助をしていきたい」と話されました。

この後一般議題に移り、沖山泰彦会計理事から昨年度の会計報告と今年度の予算計画、更に大槻悦子副会長より昨年度の実業報告並びに今年度の事業計画が報告され、それぞれ承認されました。

(会計報告、事業計画など詳細はプリントされ出席者に配られておりますが、必要がありましたら事務局迄ご請求ください)



総会の写真提供:大隅敏男さん、2面にもあります

更に新年度の理事候補12名が紹介され、全員承認されました。ここで総会の議事は総て終わり引き続き食事に移りおいしい料理と会員同志の話に楽しい時間を過ごしました。

今回は新しい試みとして、食事の後に会員からの希望や、意見を聞く時間を用意しました。その結果、事業計画の中でも新年度の一つの目玉催事として紹介され、会員からも要望の強かった日帰りバス旅行を来年5月に計画していますが、今日の出席者のほとんどの人が参加を希望していました、更に大隅副会長のもと進められる「食べ歩き」同好会にも大勢の参加希望者が有りました、また身近な問題を取り上げる「講演会」に対する要望も多くありましたので、事務局として年内に開催する事を目標に企画します。

以上滞りなく総ての議事、懇親食事会、意見交換等を終わり2時30分に無事終了いたしました。



この欄は会員の皆様へ開放されたスペースです、貴方のこだわり、旅の想いで、専門的知識など皆様に伝えたい事をスタイルにこだわらずお寄せください。文字数はおよそ1,000字程度とし、毎月の締め切りは15日です。

ガレージセールについて

私が過去六年間ジャパンプラブのガレージセール係を引き受けてきましたがどうしてジャパンプラブがガレージセールをするの?と聞かれた方がありましたが「相互扶助」の一つとしてと返事をしますと「相互扶助」?と頭を傾げられさてこちらも頭を傾げて...

1. 不必要な物は寄付して置き場所を広くする。
2. 自分の家で不必要な物を寄付して少しでもクラブの資金にして何時かの災害の時には社会、会員にヘルプをする。
3. セールにだして買った方に喜ばれる。
4. 何と言ってもこのセールをする事によって会員、友達にドウネーションのお願いする事によって新会員入会のチャンスをつくり、会員同士の横の繋がりを把握する事によりクラブの組織をしっかりと出来る事は大利益だと思えます。
5. 会員力を合わせて長時間働きお互いに意気投合出来る。

日本ではあまりガレージセールと言う事は聞きませんがゴミ収集所の場所にはまだ使用出来そうな物が沢山出ているのが目につきます。昔ある歌手の奥さんがこれに気がつき先ず古家具を集めて店を出し大金持になったとか聞きます。また昔ボロ買いと云って金具を買いに来てたのも思ひ出します。日本人はそんな事していると他人様から可笑しく見られますネ。ジャパンプラブはボロ買屋だと言わないで下さい。クラブへの出品物はボロではなく誰かが使える物で中には新品の物も沢山頂きます。ドーナイトされる方々とドーナイトを友達にお願いして下さる方々には厚く御礼を申し上げます。

来年も五月に予定していますが鯉のぼりを挙げてボーイズデイを祝いたく思っています故不必要な物は捨てないで来年までとって置いて下さい。

セールス 係員 北 哲也



この度の定期総会にお招きした石川治、久美子ご夫妻から礼状をいただきましたのでここに紹介します。

ジャパンプラブ会長
上野正安様

2012年7月8日

拜復 この度はクラブの第18回定期総会にお招きいただき、たいへん光栄と存じております。有難く出席させていただきます。

さて、月日の経つのは早いもので、私共が当地の新聞紙上でジャパンプラブを知り、入会させていただいたのが、1997年6月中旬でしたので、もう15年の歳月が過ぎてしまったと実感しております。

加入後はクラブの諸行事に楽しく参加させていただきました。しかし小生が2001年11月及び12月並びに2011年3月に体調を崩し、残念ながら行事に参加する機会も減り、皆様に色々ご心配と心配をお掛けしました。最近ではほぼ平常に戻りましたが、今度は加齢との戦いがひどくなっております。何時もながら、まして体調不良の時は一層、ジャパンプラブとメンバーの皆様がおいでになるという安心感を身に沁みて感じております。

長年に亘って、クラブとメンバーの方々から私共にお寄せいただきましたご厚誼につきまして、今改めてお礼の言葉を述べさせていただきます。

末筆ながら、ジャパンプラブの一層のご発展を心からお祈り申し上げます。

敬具

石川 治、久美子



石川治、久美子ご夫妻と
上野正安会長、
古田紘一事務局長



総会会場を一層和やかにしてくれた沢山の花は浦田伸夫ご夫妻からの贈り物です。さらに食事会の場を楽しく盛り上げ食事をより美味しくしてくれたワインは大隅敏男副会長からのご寄付によるものです、ありがとうございました。



...節電奉行...

7月に入って日本全体2年越しの節電対策が始動した。東北大地震で福島原発が破壊されて以来約1年余、すべての国内の原子力発電が中止、去年は押しなべて15~20%工場、会社、一般家庭の節電が叫ばれて実行された。

今年7月始め紆余曲折を経て日本では唯一、大飯原発が再起動し全開を待って今後は10%の節電を呼びかけるという。アメリカにくらべて日本の電気料はコスト高、政府が声高に叫ばなくとも一般家庭はもともと電気代節約には気を使っているという。ちなみに、私のところでは夏は冷房代がやや嵩み(かさみ)1ヶ月8000円位になる。

考えてみるとアメリカでは、日本にくらべてかなり昔からオール電化で、一日、一刻たりとも送電がストップされれば国民生活は成り立ちいかないだろうしパニックになる。昔の生活と今をくらべても埒(らち)はあかないのはわかっているけれど日本国内でも最近では電気のない生活は成り立たなくなってきた。

最近の日本では、新聞、雑誌、テレビの電器の広告を見ていると「IH」(Induction heaterの略)という略語がやたらと目立つ。アメリカに居た



ときには知らなかった言葉だ。日本に帰りリフォームした家に入居してIHが何であるかを知った。スイッチを入れても全然赤くならない台所の料理レンジのことである。従来のやかん、なべ、フライパンをのせても全然沸かないし熱くもならないがIH用の容器に水や食べ物を入れてのせるとクックできるのである。これは老人家庭や留守番する子供が火による事故を起こさないために開発されたものらしい。ちなみに、これを導入するためには従来の100Vに加えて200Vの電源が必要。そして電気代がどれだけ増えるかなどは余り知らされていないがこれ無しに台所でクックはできない。未だ体験はしてないが、停電になるとウォシュレットも使えなくなるとか?

日本国内でも所によっては昭和の始めまで電気の無い生活があったのは事実である。無ければならぬ人々は工夫しながら生活していたのだ。我慢強さの点では日本人に軍配があがること間違いない。

今、便利さ、快適さに馴(な)れて人は脆弱(ぜいじゃく)になっている。最近「明かり奉行」という言葉が出てきた。会社や家で不要な照明を消して廻る人を言う。「節電奉行」は主に家庭の節電を司る(つかさどる)人を言う。時代に添って面白い言葉が使われるものだ。面白がって私も一夏、節電奉行に徹しようと思う。 東京・村井侑子